平成27年度　大阪府立岬高等学校　第１回学校協議会　議事録

平成27年５月25日（月）午後３時～

於　岬高等学校　校長室

出席者　【委員】見先　梅川　松本　西本　清井　安宮　（敬称略）

　　　　【岬高校】校長　教頭（２名）　事務長　首席

　　　　　　　　　教務部長　生徒指導部長　進路指導部長　国際交流委員長　特別支援コーディネーター

　　　　　　　　　初任者（６名）

１．【学校長挨拶】（要旨）

　・これまでの教員経歴（特に昨年度までは、大阪府教育委員会教育振興室高等学校課生徒指導部グループに在籍）の説明。

　・先日、貝塚市住民から岬高校生に道を案内してもらいうれしかったという連絡があった。このような優しい生徒さんがいる学校の先生も生徒さんに対し、すばらしい教育をされているのですねと言っていただいた。

　・本校の教育発展のため、引き続き委員の皆様へご協力のお願い。

　①校長より、今年度の学校協議会委員の皆さんの紹介。

　②教頭より、学校協議会の実施要項の説明。

　③学校協議会会長に見先氏を、会長代理に西本氏を選出。

２．【報告事項】

　①エンパワメントスクール進捗状況

　（校長）エンパワメントスクール 大阪府立岬高等学校 概要を参考資料に解説。これまでの岬高校と同様に、「寄り添う」「粘り強い」教育を実践し、社会に貢献することのできる人材の育成を図る学校をつくります。生徒に育みたい力は１．新たな自分を創造する力、２．人間関係を大切にする力、３．社会に貢献する力です。教育課程等で大きく変わるところは普通科から総合学科になるところです。現在、担当者に分かれ、教育課程を検討中です。エントランス、福祉実習室、英語小ゼミ室の工事は今年度中に行います。また、１年生のフロアー４階の９つの教室にはプロジェクター、アクセスポイントがつきます。

　②各部事業報告

　○教務部より

　　・平成26年度４月当初在籍数の説明。

　　・平成26年度転退学者数（平成25年度に比べ４名の増加）の説明。

　　・平成26年度月ごとの転退学者数の説明。３月の人数が多いのは単位が取れないという結果がそこで分かるからです。

　　・入学者選抜について、前期は２．０４倍でしたが、後期は０．７４倍と定員割れでしたので、２次選抜を行いました。合計２４１名の合格者となりました。

　　・エンパワメントスクールに対応した教育課程や教務内規を整備します。

　　・昨年に引き続き、１・２学期末の補習授業や追認指導を実施し、年度末における欠点者の減少を目指します。

委　　員：定員割れが起こった原因として、どのような分析をしているか。

　校　　長：データに基づいたものは無いが、エンパワメントスクールになるにあたっての戸惑いがあったのではないかと考えている。よって、今年度は中学校訪問を行い、中学３年生に詳しく、正しく説明をしていく。

　委　　員：岬高校は本当にきめ細やかな指導をされている。コースで興味を持たせることにも関心をしている。

　　　　　　エンパワメントスクールを必要とする生徒もいると思う。

　教　　頭：学び直しという言葉に批判的な面もあったが、昨年度中学校訪問も行い、それは少なくなっている。

　委　　員：現在と同様、子どもの興味・関心を引き出してほしい。また、きめ細かい取組みを期待する。

　○進路指導部より

　　・34期生の進路状況について、進学合計65名（昨年比－９名）、就職等の合計106名（昨年比－18名）

　　・進学は指定校推薦、AO入試の割合が多い。

　　・就職は昨年度に比べ、学校紹介就職の求人件数も増え、内定者数は昨年度とほぼ同様の数字が出ている。

　　・進学、就職をしてもすぐにやめてしまう生徒が少なくない。そのあたりの指導も今後、考えていかなくては

　　　ならない。

　　・今年度の進路希望調査結果は就職62.4％、進学37.6％。

　○生徒指導部より

　　・登下校及び休憩時間の立ち番指導について

　　・年５回の生活指導キャンペーンについて（普段の立ち番指導よりも多くの教員を各場所に配置）

　　・生徒指導に関する講演について

　　・立ち番指導は生徒の問題行動抑止だけでなく、コミュニケーションをとることが苦手な生徒から、「先生が

いろんな所で声をかけてくれているからうれしいし、安心できる。」といった意見があるのも事実である。

課題としては、教員がいない場所での問題行動である。今年度は定期的に教員が立つ場所を変えながら問題

行動の抑止に努めたい。

　委　　員：岬高校の生徒はいい方に変わったと地域では評価している。挨拶をしてくれる生徒も増えた。つつじ祭りも最後の片付けまでしてくれて、感謝している。ただ、階段、スロープでの喫煙をどうにかしないといけない。

　委　　員：地域からは立ち番を一生懸命やってくれていることを評価している。挨拶もしっかりできている。制服もきっちり着ている。山海人プロジェクトではその場にあった服装を着てくるようになった。実施当初は山を歩くのにハイヒールを履いてきたり、軽装で来る者が多くいたが、今はしっかり作業できる服装で参加している。このような生徒が出てきたということは前向きに考えて良いのではないか。

　委　　員：今年の生徒はやんちゃな生徒が多い。電車に接触し、停車させることがあった。命に関わってくることなので、指導をしっかりしてほしい。

　○国際交流委員会より

　　・平成26年度実績報告。平成26年度11月に台湾基隆女子高級中学が来校。岬高校生、PTA、後援会が迎え、

交流を行った。また、12月には岬高校から訪台。このとき、生徒は自分で考え行動するアクティブラー

ニングを実践した。平成27年度も同時期の日程で予定をしている。

　委　　　　　員：交流時に、台湾の高校との校則の違いについて比較し、話し合ってみてはどうか。

　国際交流委員長：その内容も検討する。部活動の入部率等についての話はしていた。

　委　　　　　員：歴史、文化の差を理解すべき。そのあたりを話し合ってはどうか。

　国際交流委員長：歴史、文化の違いについては、毎年1年生全員が、総合的な学習の時間に日本に留学している

大学生と国際理解ワークショップとして実施している。

　委　　　　　員：娘が台湾研修に参加したが、親と離れて行くので、そこで頼れるのは自分だけ。英語、中国語

　　　　　　　　　をどうにか話したようだ。食べ物、習慣の違いを学んだ。また機会があれば行きたがっている。

　　　　　　　　　行く前よりも成長して帰ってきたように感じる。

　○特別支援検討委員会より

　　・学校における特別支援教育の位置づけ、校内委員会の設置の目的について

　　・本校の現状と設置理由、特別支援検討委員会の役割

　　・校内特別支援体制の手順に基づき、支援対象となる生徒について、特別支援検討委員会を開催していること

　　　を説明

３．【協議事項】（見先協議会長の司会進行）

　①平成27年度　学校経営計画及び学校評価（校長より説明）

　　・変更した点を主に説明。礼儀やマナーを守るだけでなく、先ほど高評価していただいた朝の挨拶も、より一

層できるようにしていく。学習活動の充実においては少人数展開授業において、生徒からは６割以上の肯定

意見が出ているが、体育祭、文化祭は４割と低いと分析。

　　・本年度の取組内容及び自己評価においては、学習活動の充実、特別活動の充実、人権教育、道徳教育に基づ

　　　いたキャリア教育の充実と「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開について、重点目標と取組計画・内容

　　　を解説。

　（質疑応答）

　委　　員：山海人プロジェクトに関して、事前打ち合わせに生徒を参加させてはどうか。そこで何がしたいとか

　　　　　　もわかる。

　委　　員：特別支援教育で岬高校にはお世話になっている。岬中学では剣道を教える教員、指導者がいないので

　　　　　　岬高校剣道部と土、日など一緒に練習をお願いできないだろうか。

　教　　頭：検討します。

　司　　会：そろそろ時間もきましたので。

　教　　頭：協議会の皆様、ありがとうございました。貴重なご意見をいただきまして、岬高校のさらなる発展に

つなげていきたいと思います。次回の開催は９月中旬を予定しております。それではこれで終了いた

します。